

# 私の箱根駅伝応援記

## 箱根駅伝とともに

S59年社会学部応用社会学科卒 青木文之



私は現在中学校の教員をしています。また、東洋大学卒業生で新潟県の義務教育に携わる職員（教員、図書館司書、事務職員）などで組織されている『新潟四聖の会』の事務局を担当しています。年一回、同窓の親睦を図ることを目的に活動を行っています。この度、校友会会報浦水の本間様から原稿依頼を受け箱根駅伝について書かせていただきます。

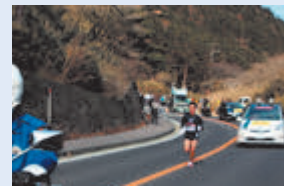
我が家では、箱根駅伝に応援に行くことが毎年の恒例行事となっています。応援する場所は宿泊場所でもある箱根の国道1号最高地点芦ノ湯辺りです。行き始めた頃は、東洋大学の成績はシード権をとれるかどうか、シード権を取れずに予選会からの出場がほとんどでした。妻の出身である中央大学は駅伝名門校で最初は出遅れても最後はシード権をとりいつも余裕の表情でみていました。（近年は逆ですが…）行き始めた当初は元旦の朝に新潟を車で出発し、東京都内に入り東名高速で厚木～小田原、国道1号線で夕方箱根に着くルートでしたが、最近では交通事情がよくなり鶴ヶ島JCTから圏央道経由で昼過ぎには箱根に着くことができるようになりました。

母校の名誉をかけ頑張っている選手を見ると、どの大学の選手にも声をかけずにはいられない気持ちになります。初めて見た時は涙が出そうになり感動しました。「〇〇大学ファイト！がんばれ、もう少しだ！いけー。」最初の選手が通過してから最後の選手が通過するまでたった十分足らずなのですが、家族全員で精一杯の応援をします。翌日は復路スタートを応援してから新潟に帰るのですが、旅館のフロントで「また、来年も予約します」こんなことが二十年近く続いています。

幼かった四人の子どもたちも上は成人して社会人になりました。男の子二人は高校に入り陸上部に入りました。私も今、人生初めての陸上部顧問をやっています。これも何かの縁なのでしょうか。「正月は箱根」がいつの間にか我が家の絆を深くするものになっています。本当はお金もかかるのでいつやめようか迷っているのですが、やめるにやめられないのが箱根駅伝の魅力です。皆さんもぜひ一度箱根駅伝に足を運んでみてください。



国道1号最高地点標識



(平成23年)



### ◆◆ 陸上競技部山古志合宿募金の御礼 ◆◆

平成26年度の山古志合宿の募金は168名の方より総額384,200円のご寄付とシップ葉1箱を頂きました。

本当に有難うございました。

(校友会新潟県支部長 植木 宏)



幸運の兆し?

# 「双頭蓮」を咲かせた

校友 塩坪恭平氏 (S33年文学部国文科卒)

S53年工学部応用化学科卒 吉田 実

昨年の7月15日(火)朝4時半に起床し4時45分から関川の堤防を散策して5時半頃自宅へ戻る散歩&ジョギングが私の日課である。距離は約5キロメートル。夏の時期は全身汗だくになる。

着替えを済ませ朝食を食べながら地元紙の「上越タイムス」の第1面を見たらどこかで見覚えのある顔写真が載っていた。記事の内容はご自宅で育てられた鉢植えの蓮から「双頭の蓮」の花が見つかったという記事であった。通常は1本の花の茎には1輪の花しか咲かない。



新聞の塩坪さんの写真をじっくり見た。そして気がついた。この人は大学の先輩だと。過去に上越の校友会総会でお会いしていたので分かった。

「双頭の蓮」はあまりにもめずらしいので上越タイムスで大々的に取り上げられた。高田公園のお堀で咲いている膨大な数の蓮から「双頭の蓮」が咲くのはめったに無く、まして自宅の鉢植えの蓮から咲くなんて奇跡である。今年はさすがに再び奇跡は起こらず花も終わったそうである。水を張った鉢に毎日水を与え精鍛込めて育てた「双頭の蓮」の御利益はあったのだろうか。

上越地域の夏の見どころに高田城公園のお堀の蓮がある。例年7月下旬から8月お盆過ぎまで蓮まつりが開催され多くの市民や観光客が訪れる。また8月上旬の3日間ドイツ式のビール祭 Oktoberfest (オクトーバーフェスト) が公園内で開催され多くのビール好きが汗をかきながらジョッキやグラスを高々と持ち上げてドイツの乾杯の歌 Ein Prost (アイン・プロージット) を歌いながら Prost (プロースト) と言って乾杯するのである。野外の特設ステージでは楽団や踊り・歌などの演奏が披露され観客を楽しませている。是非校友の皆さんも来年の蓮祭りやオクトーバーフェストにお出掛け下さい。

ところで塩坪さんは会社を退職された後町内会長など地域に貢献され、現在は高土区地域協議会の会長をされている。6年前から地域活動支援事業という補助金制度が誕生し、地域の活性化などに貢献する事業を募集して審査する役割をこの地域協議会が担っている。今年度の高土区に配分された補助金の総額は4,900千円で1次募集で残額があったため、残額に対する2次募集を行っている。2次募集まで行くと地域活動支援事業の審査でおよそ半年掛かってしまう。今年度高土区で採択された事業を紹介すると、採点のトップが「ふるさと高土まつり事業」の350千





円で採点最下位が「地元野菜の魅力発見、旬の野菜クッキング事業」で88千円であった。今回は提案された事業は全て採択され申請金額の満額補助が決まった。事業の内容によっては審査基準に適合せず不採択になったり減額されることがある。(市のホームページ公開資料より。)

最近の高土区の地域協議会では地元のスポーツ施設の廃止を市から提案され多くの反対意見が出ているようである。市の財政難から多くの補助金カットや施設の統廃合・廃止、利用料金

の値上げが行われている。地域協議会は自主審議などで地域の問題に対する意見を市長に提案する権利がある。このような地域協議会の会長を務めているのが塩坪さんである。これからの益々のご活躍をお祈りします。

上越市高田の塩坪恭平さん(79)宅で栽培しているハスから、一本の茎に二つの花をつける珍しい「双頭蓮(そとごれん)」のつぼみが見つかった。日本書紀に記述があり、「吉祥・瑞兆(すいしあう)いちまの」の花という双頭蓮は、近日常にも開花する見込み。塩坪さんの家族、近隣住民、関係者は開花を待ち望んでいる。

塩坪さんは、同市みどりのまち協議会や市シルバ人材センターの関係で上越市ほど、東洋一のハスで名をはせる高田公園の管理に携わっている。現在も「花いっぱい」上越市員としてハスの管理・保全を日々努めている。

双頭蓮が見つかったのは、高田公園のハスの蓮葉を元へ、自ら、大小のハスが合わせて約20個ほど栽培する

## 吉祥呼ぶ 双頭蓮

上越タイムスに掲載された記事

### つぼみ開花心待ちに

**上越市高津 塩坪恭平さん**

「つぼみ、撮きたよ」と、6月下旬、つぼみが伸長し並んでいる。水面(みなも)に形のいびつなつぼみを見、成長が進むので双頭蓮を確認した。台風などを折れも心配されが切、

「無事咲いてほしい」と話した。一連繋ぎに高田公園で双頭蓮を探す会(つ)は、8月20日(土)は、高田公園で開花祭りに合わせて、幸先の良い「吉祥」だ。高田公園でも双頭蓮を見て、高田開花400年の節目をみんなで見たいと、多くの人が来場を呼びかけていた。

同市で双頭蓮の発見は平成元年(例)以来年ぶり。例年にも見つかっており、いずれも高田公園内の堀

新潟日報に今年の8月13日17面に「蓮まつり」が開かれている高田公園で「双頭蓮」が見つかったという記事が掲載されていました。

## 校友会支部活動 topics

### 第10回大学対抗親善ゴルフ大会

1. 開催日：平成26年10月19日（日）
2. 会場：妙高サンシャインゴルフ倶楽部
3. 出場選手
  - ・Aチーム：杉澤洋子、澤海雄一、高島幸男、吉田実  
(昨年出場のBチームは諸事情により今回は不参加)
4. 成績
  - ・団体戦 12チーム中9位
  - ・個人ハンディキャップ戦 澤海選手55名中14位、杉澤選手飛び賞45位
5. 参加選手から一言

#### ●吉田選手

19日は大変お疲れ様でした。残念ながら男性は飛び賞に入りませんが杉澤さんは45位に入りました。団体は12チーム中9位と健闘しました。今回の大会は最高の天気恵まれ皆さんと楽しくプレイさせていただきました。また来年もよろしくお願ひ致します。

#### ●杉澤選手

日曜日は大変有難うございました。確かに9位は大健闘と私も思いました。賞品が皆さんに当たらなかったのが残念です。東洋大学の皆さんがとてもいい人で本当に楽しい一日でした。来年も出られるようにしたいと思っています。



▲写真左より高島選手、杉澤選手、澤海選手、吉田選手  
(妙高サンシャイン 1番ホール)

今年度第11回大会は、10月18日（日）です。  
よろしくお願ひいたします。

### 糸魚川地区の紹介

#### 新幹線がやってきた

S42年経済学部商学科卒 古市 襄 一

3月14日、上越・糸魚川市民が待ちに待った北陸新幹線が開業いたしました。

今後は、新幹線を利用した交流人口の拡大に期待がもたれています。

さて、今回は糸魚川市の観光スポットを紹介してみましょう。

#### 最初に「県史跡 相馬御風宅」と「糸魚川歴史民俗資料館」

糸魚川は「都の西北」の早稲田大学校歌を作詞した、相馬御風の生誕地であります。御風は、大正5年3月に故郷糸魚川に戻り、作詞家・良寛研究者として活躍いたしました。

御風が作詞した主な作品には、「カチューシャの歌」「春よこい」「早稲田大学校歌」や多数の地元小・中学校の校歌があり、すべての作詞数は500曲以上にもおよぶと言われています。

尚、相馬御風関係資料、良寛関係資料は「糸魚川歴史民俗資料館」に展示・収蔵されています。

#### 次に「日本初の世界ジオパーク」

「日本初の世界ジオパーク」に認定され、市内に24カ所のジオサイトがあります。その中から「フォッサマグナパーク」と「マイコミ平」の2カ所を紹介いたします。

「フォッサマグナパーク」では、日本列島を東西に分ける断層「糸魚川-静岡構造線」の露頭を見ることが出来ます。東側が約1600万年前の岩石、西側が約4億年前の岩石といわれ、「日本の地質百選」にも選定されています。

「マイコミ平」は、1984年新潟県の自然環境保全地域に指定されています。「千里洞（405m）」「白蓮洞（513m）」等の堅穴鍾乳洞群があり、日本の最深堅穴洞窟の1位から4位までが、この「マイコミ平」にあります。

又、標高700～800mほどの地形にして、2000～2500mクラスの高山植物が見られます。

ただ残念なことに、一般での入山が禁止されています。見学を希望される方は旅行会社のツアー等に参加してください。

#### 最後に「谷村美術館」

「谷村美術館」は、日本最高峰の木彫芸術家「澤田政廣」氏の仏像彫刻を展示した澤田政廣作品展示館です。建物設計は、建築界の巨匠、「村野東吾」氏自身が手を下した遺作ともいえる建築物とされています。

両名は、文化勲章受章者で「澤田政廣」氏が1979年に、「村野東吾」氏が1967年に受賞。日本でも珍しい美術館です。

また、四季折々に見る、お庭からの景観は風情があり、心に残るものがあります。

糸魚川には、まだまだ多数の観光スポットや「5蔵」による美味しい日本酒もございます。ぜひ一度、糸魚川に足を運んでみてください。

